

第3回名寄市都市計画マスタープラン見直し 及び名寄市立地適正化計画策定委員会 議事録

とき 平成31年2月25日(月) 午後6時30分～8時30分
ところ 名寄市役所 4階 大会議室

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 説明事項

～経過説明～

事務局から経過報告

6月	第1回策定委員会	策定意義、策定スケジュール
11月	恵庭市先進地視察	複合施設「えにあす」の視察
	第2回策定委員会	都市構造パターンについて議論→一極集中型にまとまる
12月	市民シンポジウム	名寄に移り住んできた大学生からの視点での意見・まちづくりについて
	市民アンケート	市民1,200人を対象としたアンケートを実施

～30年後のまちづくりを考える市民シンポジウム報告～

昨年12/12に名寄市立大学図書館にて開催した市民シンポジウムについて報告。

○大学生のまちづくりに対する意見

- ・施設を作るなど、規模やお金のかかることよりも今の生活を少しずつ変えていけるような施策のほうが喜ばれるのでは。
- ・名寄市に来る前に住んでいた地域ではカラオケ大会やビンゴ大会を公園などで開催していた。地域の人を知れるようなイベントがほしい。
- ・自転車や車に頼ることなく生活ができるまちづくり（高齢者が自分の力で生活することができる）。
- ・気軽に挨拶ができる・助け合いができるような、子どもから高齢者まで暮らしやすいまちづくり。

○森コーディネーターからの意見

- ・（大学生の「規模やお金のかかることではなく、今の状況を少しずつ変えていけるような施策」という話より）この考え方は、今の若い世代のほうが冷静に考えることができる。少し

昔の高度成長・バブルを知っている人たちは大きな改革に発想が偏りがちになる。経済的な起爆剤を置いたら人が集まってきて活性化するという考え。そのような考え方も良いとは思いますが、住んでいる人たちの普通の生活が少しでも楽に、楽しくなるような視点が大事。

- ・まちづくりは人によって捉え方が違う。施設ができる・道路が整備される・用途地域を意識することが多いが、このようなまちづくりがしたい、このようなまちに住みたいという目標を立てたうえで使う手段。今後生活をしていく中で将来どんな姿が豊かでどんな姿が楽しいのかをイメージしてもらいたい。

○意見交換

- ・学生への期待がプレッシャーに感じていることや、移動が不便なこと、家賃が高いことなどが問題点。
- ・地方から来てくれている大学生が不満に思っていることは改善していく必要がある。
- ・大学生が頼れる大人がいないという意見も印象深かった。
- ・進学で市外に出た経験があるが、大学の先生が親代わりだった。

～名寄市立地適正化計画市民アンケート結果について～

18歳以上の名寄市民1,200人に配布し、まちづくりに対しての意見を募った。

アンケートの結果「重点改善分野」となったのは道路・交通面。重要度が高い項目は医療・福祉施設やサービスの充実だった。また、居住意向として「中央地区に引っ越しても良いか」という質問には「引っ越してよい」「条件が満たされればよい」が約半数で、条件としては「手ごろな価格の住宅や土地があること」「買い物は今よりも便利であること」「医療・福祉サービスが充実している」が挙げられた。

○意見交換

- ・大きな店舗の進出・撤退には色々な問題が発生してしまう。
- ・商業施設を誘致するのであれば、中心市街地。街なかさがさびれていってしまうのは一番良くない。
- ・南側が盛んになっているのは事実だが、将来的にそのにぎわいを維持できるかが問題。
- ・市外から来る人の用の大半は病院。病院を中心とした公共交通のネットワークを作ることが重要なのでは。

～立地適正化計画策定検討資料について～

検討案として、都市機能誘導区域と居住誘導区域の設定方針案がそれぞれ3つずつ挙げられた。

○都市機能誘導区域・・医療・福祉・商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導し集約することにより、これらの各種のサービスの効率的な提供を図る区域。

- ・方針案A 集中的に投資していく意思を明確にし、極力区域を絞る。
- ・方針案B 名寄の概ね「中心市街地」と認識される区域。

- ・方針案C 商業・業務機能、市役所や市立病院等の主要機能を包含する範囲。
- 居住誘導区域・都市再生を図るため居住を誘導すべき区域として立地適正化計画で定められる区域。
- ・方針案A 重点的に居住誘導する範囲を政策的に絞って指定。
- ・方針案B 将来人口密度の維持を目処に指定。及び風連地区。
- ・方針案C 人口密度が現在確保されている区域。及び風連地区。

○意見交換

- ・方針案Aだと、アンケートで重要視されていた病院が範囲に入らない。医療分野に対する施策は作ることができるのか。もし、洪水浸水の可能性も含めて病院を誘導するならば面積を確保できないのでは。

→誘導施策は一案に過ぎないことをご理解いただきたい。都市機能・居住誘導それぞれ基本的に「一極集中型」で提案している。仮に駅前を拠点とすると公共交通等で病院までつながりたちとなる。A案は病院を外すわけではなく、買い物圏で人口が集中して歩いて活動ができる範囲を示しているので、ご理解いただきたい。

- ・公共施設の統合は北海道の合同庁舎と複合したら利便性が高まるのではないか。
- ・これまでに名寄市には大きな商業施設を誘致するという噂があったが実現されていない。その印象が強いため、計画を進めるにあたって陰しい道になるのではないか。

→名寄市では企業立地促進条例というものがあり、その条例に伴いそのような話があったとも聞いている。名寄市では、市外からの集客も兼ねた立地活動が行なわれているということ。次回以降、また本策定委員会で意見を頂戴し、進めていこうと考えている。

- ・大きな商業施設・企業誘致も1つの案、市場のように個人商店を集約するのも良い。
- ・「市営住宅の街なかへの再配置」とあるが、現在、団地の建替えを行なっている場所があるがどうするのか。

→現在建替え中の北斗団地は新年度で一定程度終わる予定。街なか誘導は30年、40年後までにゆるやかに誘導していくというもの。人口減少を見据え住戸の数を下げる目標を示している。今行なっている建替えも踏まえ計画している。

- ・利便性が良いのは街なかなのか、現地なのかを吟味して進めていかなければいけない。

～今後のスケジュール～

事務局から今後のスケジュールについての説明。

2月28日（木） 第2回都市計画審議会

4月 庁内検討委員会

4. その他

5. 閉会